

男鹿真山伝承館：実演 先立ち登場

なまはげから家族を守る役割を担うのは、家長です。そのため家長がまず登場します。するとすぐに使い人が現れ、間も無くなまはげが到着することを家長に伝えます。2人は新年の挨拶を交わし、外でどれほど雪が積もっているかについて話し、それから家長は今なまはげはどこにいるのか尋ねます。

使い人は、近所の子供の1人がやんちゃにしていたため説教されているので、その家で少し時間がかかっていると伝えます。なまはげはその子供を山に連れて行くと脅していると、使い人は言います。これは地元で昔から使われる子供への警告で、青年たちが道を踏み外さないようにするためのものです。ここからもわかるように、なまはげの中心的な役割は、子供達の躾なのです。

次に使い人は、なまはげは近所の家の訪問を終えたので、今こちらに向かっていると伝えます。家長が動く隙もなく、外で大きな音がします。なまはげは家の正面で急に吠え、戸を大きく叩きます。その後家の中に押し入り、誰か家族が隠れていないか探すために、全ての部屋をまわります。手早く見回った後、2人のなまはげは、この恐ろしい訪問者のために家族が用意した食べ物を乗せた盆の前に座ります。